

令和6年度

試験名： 推薦入試

【 人間 学群 障害科学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
一般	<p>今回の推薦入学試験では、障害科学類の専門分野に関連するテーマを扱った英文を読ませることによって、英文の読解力と論述における論旨の明確性、論理性、独自性を評価することを目的としている。</p> <p>障害科学は学際的な学問でその専門性は多岐にわたる。その対象は障害のある当事者に加えて、養育者や教師など当事者に関わる人たちも含んでいる。今回は、助産師でもある母親の出生前診断と中絶の経験についての記事と、ダウン症である胎児の人工妊娠中絶に伴う倫理的問題に関する記事を取り上げた。それぞれThe Guardian誌のウェブページに掲載された記事から、“Women have the right to prenatal genetic testing – and to choose abortion.”(英文①)と“Woman with Down’s syndrome loses court of appeal abortion law case.”(英文②)を一部改変して用いた。倫理的問題が複雑に絡む事態について、障害のある人や中絶した母親など異なる立場からの考えや感情が述べられている。</p> <p>問題1では、出生前診断と中絶を実際に経験した母親の感情や意見と、障害のある胎児に対して通常より遅い人工妊娠中絶が許可されていることについての障害のある人の意見を記述した英文を日本語に訳すことを求めている。問題2では英文①を読んで、女性に出生前診断を受ける権利があることとその理由、出生前診断や中絶についての意見の対立にどのように対処すべきかについて、要約することを求めている。問題3では、英文②を読んで、ダウン症胎児の中絶における障害のある人が平等に扱われる権利と女性の人生の自己決定権という2つの権利についてまとめ、自らの考えを論じることを求めている。</p> <p>英文では、障害のある胎児の出生前診断と人工妊娠中絶について、さまざまな立場の関係者の意見や感情が率直に述べられている。障害のある人の権利と意思を尊重し支援を行うことは当然のことであるが、現実では様々な人の権利との対立が生じる可能性が考えられる。障害のある当事者と当事者に関わるさまざまな人の権利と立場について考え、対立が生じた場合にどのように対処するかは、障害のある人の支援や権利擁護について学ぶ障害科学においては非常に重要である。</p> <p>本問題では出生前診断や人工妊娠中絶に伴う倫理的問題について英文を読み取り理解するだけでなく、何が正しいと簡単に答えが出せるわけではないこの問題について自らの考えを論理的に展開することを求めている。</p> <p>以上のような点から、本問題は障害科学類の小論文問題として取り上げるに適切であると考えられる。</p>